

ボランティアに着目したプロスポーツクラブと サポーターの関係性に関する研究

舛本 暖菜

これまでスポーツは、「する」もの、「観る」ものとして捉えられてきた。近年、「支える」要素であるスポーツボランティアが注目されている。スポーツボランティアへの関心が高まる一方で、個々のスポーツボランティア実施にはなかなか結びついていない現状がある。先行研究では、あくまで特定のスポーツ場面におけるボランティアの行動原理の解明に終始しており、スポーツボランティアを行う個人の体験は不透明であると言える。

そこで本研究では、サポーター有志が運営するスポーツボランティア団体である「川崎フロンターレクリーンサポーターズ」(クリサポ)を中心に調査を行い、プロスポーツクラブとサポーターの関係性を探ることを目的とする。スポーツボランティアの今後のあり方に新たな視点を提示し、個人のスポーツへの関わり方を考えるきっかけになることを目指す。

本研究では、半構造化インタビューとフィールドワークを研究手法として採用した。半構造化インタビューでは、クリサポの運営メンバー5名を対象とした。また、クリサポの活動に6回、その他の清掃活動で6回のフィールドワークを行った。いずれの調査も、2019年11月から2020年12月にかけて実施した。

本研究の調査から、以下の3点が明らかになった。①クリサポのスタジアムにおける役割である。ごみ拾いを通して、クリサポ参加者のスタジアムを綺麗にする意識が育まれる。活動に参加していない人も、クリサポが呼びかけをしている姿や、ごみを拾う姿を見て、スタジアムを綺麗にする意識が育まれていく。また、クリサポ参加者が自らごみ拾いに参加することで、試合後の高ぶった気持ちを鎮めようとしている。「ごみを拾う」という行為を地道に続けてきたからこそ、クリサポの「クラブのためになる」という目的が実現されてきたと言える。②スポーツボランティアの多様性である。クリサポや他の清掃活動、試合運営ボランティアを「試合を観る・クラブを支える」「活動参加への手軽さ」という軸で見たときに広範囲に分布していることがわかった。③クリサポはクラブを支えるサポーターの集まりである。この「支える」という行為は、クリサポから一方的な押しつけやクラブからの一方的な要請に基づいてのものではない。活動を継続する中で、クリサポとクラブの間に信頼関係が築き上げられ、互いに支え合うという形になっている。スポーツボランティアにおいても、支える側と支えられる側の信頼関係が重要であると考えられる。こうした良い関係を築くためには、一方的な行為の押しつけあいではなく、「支える」立場と「支えられる」立場のどちらも相手を尊重することが必要となる。

本研究において、サポーターが自発的に作ったスポーツボランティア組織に焦点を当てることで、既存の研究では把握できなかったスポーツボランティア活動の実態が明らかになった。

(指導教員 照山絢子)